

シンナガサキミーていんぐ開催レポート

i n 日見小学校区



令和6年5月14日（火）、PTAや育成協、民生児童委員、地元事業者、学童保育関係者など14人の皆さんにお集まりいただき、日見小学校区の「シンナガサキミーていんぐ」を開催しました。

自己紹介では、学校や公共施設、公園、プール、スーパーなどが徒歩圏内にある日見地区の暮らしやすさや、地域で暮らしていく中で感じていることなどをお話いただきました。



いただいたご意見

①通学路の安全確保について

小中学校の通学路でスピードを出して走る車が多く、子どもたちの安全面が心配なので、どうにかならないか。

市の考え方
回答

ご指摘がありました内容と場所について、長崎警察署交通課に文書を送付するとともに、同課の担当者と対応策について協議を行いました。

速度規制等の実施は現段階では困難であるものの、パトロールの強化など可能な範囲で協力するとの回答をいただいています。

②日見川の環境整備について

日見川は地域の憩いの場になっている。高校生が学期の終わりに必ず清掃してくれるので助けているが、学生や地域住民で掃除するには危険なところもあるので、いい方法はないか。

市の考え方
回答

日見川は長崎県が管理していますので、いただいたご意見について長崎県長崎振興局建設部に対応の検討をお願いしました。（その後、長崎振興局が除草を行っています。）

③学校と地域の関わりについて

学校の運営方針などでは「地域との関わり」を重要視しているようだが、今後、地域と学校の関わりをどのように考えているのか教えてほしい。

市の考え方
回答

地域全体で子どもの健全育成を図るため、学校運営協議会（コミュニティスクール）の導入や地域学校協働活動の実施など、学校と地域の関わりを深める取組みを進めています。

子どもたちが、まずは自分たちの地域をよく知ることが大切だと考えており、「地域を知る教育」に力を入れています。

具体的には、地域を知る教育としては、「小学生まちづくりアイデアコンテスト」や「中学生議会」において、未来のまちづくりについて考える場を設け、長崎市版キャリア教育「長崎LOVERS育成プログラム」などを推進しています。

また、地域との連携につきましては、学校の催しに保護者や地域住民をゲストティーチャーやボランティアとしてかわる取組みや土曜授業を含めた学校公開を推進し多くの保護者や地域住民に学校を参観してもらう場を増やしています。

実際にどういった活動をするのかは、学校によって違いますが、学校と地域が一緒になってやっていくことは、望ましい方向性だと考えており、それがシビックプライド、その地域に対する誇りにつながっていくと期待しています。

そのほか、「地域活動やPTA活動などの担い手育成や負担軽減を考えていきたい」、「地域コミュニティ連絡協議会で開催した『日見まつり』を知恵を出し合いながら盛り上げていきたい」、「大学生などの若い力を巻き込んでいきたい」などのご意見をいただきました。

いただいたご意見は、担当部局と共有し、今後の市政運営に活かしていきます。



鈴木市長のひと言

少子高齢化や担い手不足など、日見地区のさまざまな課題を伺うことができました。子育てに関しては地域一体となって、地域で育てる、これが人口減少社会の中で地域が抱えている課題を解決するひとつの手掛かりになるのではないかと考えています。今後、日見地区全体がワンチームとなって地域の課題に取り組み、他の地域のモデルケースになっていくことに期待しております。



参加者からの感想

日見の利点、保育園から大学まであるなど活用し、コミュニティなど、各団体で連携をとっていけたらと改めて感じた。

同じ地域のことも、知らないことがたくさんあった。市長さんやいろんな立場の方の話を聞いてみんなそれぞれ頑張っていることが分かった。

地域が元気になるよう、少しでもお役に立てるよう頑張ろうと思った。

日見地区のミーティングとしてそれぞれが気がねなく意見を市長に伝えられたのでよかった。

